

古民家再生学生が一役

広島工大生、北広島で内装デザインや作業

広島工業大環境学部で建築デザインを学ぶ学生が、北広島町岩戸にある築94年の古民家を一棟貸しの宿にする再生プロジェクトに一役買っている。持ち主の依頼を受けて内装のデザインを手がけ、改修工事も手伝う。かやぶき屋根の名残をとどめる外観にマッチした田舎ならではの宿にしたいと試行錯誤した。
(与倉康広)



改修中の古民家の壁塗り作業をする広島工業大生

古民家は木造平屋の約70平方メートル。10年ほど前から空き家になっていたのを、隣に住む林業大内良三さん(50)が買い取り、林業の体験や担い手育成の拠点にしようと改修を進めている。

同大の学生は、大内さんの知人の教授を通じてプロジェクトに参加。2022年夏から、建築デザイン学科のゼミ生約20人が現場実習の一環として関わり、測量から設計まで全面改修のデザインに携わった。

ケイ藻土を用いるなど昔ながらの趣とくつろぎやすさを重視。もともとの4部屋を3部屋にし、土間を広くしたのが特徴という。シャワー室とキッチンも備える。模様を作って大内さんと打ち合わせ

林業体験できる宿へ試行錯誤



広島工業大生が改修デザインなどを手伝った古民家

を重ね、費用と折り合いをつけながら実現可能な図面を仕上げた。既に着工し、3月上旬には学生12人が古民家に集い、壁に土を塗る左官作業や、新たに設ける縁側のくぎ打ちを手伝った。4年古瀬凌太郎さん(21)は「座学ではできない貴重な体験。町外の人が多く訪れる宿になるといい」。大内さんは「今後も若い力やアイデアと連携し、地域を盛り上げたい」と期待していた。

宿は6月にオープン予定。クラウドファンディング(CF)のサイト「レディーフォー」で五右衛門風呂の設置に向けた資金を募っている。

